IMF世界経済見通し―リスクは和らぎ、前向きな兆候

情報提供資料

作成日 2020年1月21日

世界経済は、2020年に持ち直すとの見通しが維持されました。

- **IMF（国際通貨基金）は、「一部の新興国において経済活動に懸念が生じている」として、2020年および2021年の世界経済見通しを前回（2019年10月時点）から小幅に下方修正しました。**
- **ただし、製造業が底を打つ兆候、緩和的な金融環境、米中貿易交渉に関する好材料、などにより、世界経済は2020年に持ち直すとの見通しは維持されました。**

【図表1】主要国の経済成長率（IMF予測値、前年比%）

	2018年	2019年（推計値）	2020年（予測値）[3ヵ月前予測値からの変化幅]	2021年（予測値）[3ヵ月前予測値からの変化幅]
世界	3.6	2.9	3.3 [▲0.1下方修正]	3.4 [▲0.2下方修正]
日本	0.3	1.0	0.7 [+0.2上方修正]	0.5 [修正なし]
米国	2.9	2.3	2.0 [▲0.1下方修正]	1.7 [修正なし]
ユーロ圏	1.9	1.2	1.3 [▲0.1下方修正]	1.4 [修正なし]
スイス	2.8	0.8	1.3 [–](注1)	1.6 [–](注1)
豪州	2.7	1.7	2.3 [–](注1)	2.6 [–](注1)
カナダ	1.9	1.5	1.8 [修正なし]	1.8 [修正なし]
新興国(注2)	4.5	3.7	4.4 [▲0.2下方修正]	4.6 [▲0.2下方修正]
中国	6.6	6.1	6.0 [+0.2上方修正]	5.8 [▲0.1下方修正]
インド	6.8	4.8	5.8 [▲1.2下方修正]	6.5 [▲0.9下方修正]
インドネシア	5.2	5.0	5.1 [–](注1)	5.2 [–](注1)
南アフリカ	0.8	0.4	0.8 [▲0.3下方修正]	1.0 [▲0.4下方修正]

注１：今回は未公表であり、前回2019年10月時点の数値
注２：新興国はIMFが公表した日本語版では「新興市場国と発展途上国」　出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

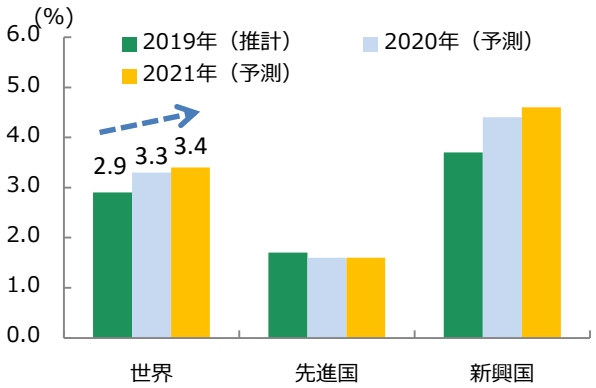
景気の下振れリスクへの警戒は継続

世界経済の見通しは、依然として下振れするリスクがやや優勢との見方が示されました。ただし、堅調な個人消費が追い風となり、企業の設備投資の回復も期待できることから、下振れのリスクは和らいでいるとの見通しです。

世界経済の緩やかな回復シナリオは維持

金融緩和の動きが広まる中、製造業や貿易が底打ちする兆候があり、米中通商交渉に関する好材料が見られることから、世界経済は2020年に持ち直すとの見通しが維持されました。日本は経済対策の効果、中国は「第１段階」米中通商合意、がそれぞれプラス材料とされ、2020年の見通しは前回（2019年10月時点）から上方修正されました。

【図表2】経済成長率（IMF予測値、前年比%）



出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようにお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。

明治安田アセットマネジメント

明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第405号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会